

## 「台湾大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学経済学部4年 佐藤 隆太郎

### プログラムの内容

国立台湾大学スプリングスクールの内容としては、午前中 3 時間中国語のレッスン、午後 3 時間文化のレッスンであった。午前中のセッションに関しては、中国語のレベル別に A 班から D 班に分けられて少人数制の受講体制であった。私が受けていた D 班においては、教科書に準拠した学習というよりは、中国語でビジネスメールを書く方法や中国語で面接を受ける練習など、より実用性の高い中国語の習得を目的としていた。午後の文化の授業では、台湾の歴史や文化、日本や韓国との比較が対象とされており、アジア圏全体に対する理解が深まった。特に興味深かったプログラムは、故宮博物館に所蔵されている文物に関する考古学の授業である。授業の内容が知的好奇心をくすぐるばかりでなく、授業の翌日に実際に故宮博物館の見学がプログラムに盛り込まれている点で非常に充実していると感じた。

### 学習成果

まず中国語の学習成果について、ただ教科書から学ぶのではなく実用性の高い中国語を学習したため、今後中華圏への海外出張や中華系のメディアの理解にも応用できそうだ。特に授業中は中国語の使用が義務付けられ、たとえ日本人のクラスメートにさえ中国語を話すように要求されたため、聴く力と話す力が大幅に伸びた。留学前は中国語を話す機会が少なく自信が持てなかったが、今回多く練習を重ねる中で、実際の会話能力が向上しただけでなく、積極的に外国語で会話することに対する自信がより強く持てるようになったと感じる。

### 台湾での経験

授業が毎日約 6 時間ある中、夕方以降や週末は積極的に外出し色々な文化体験をした。美食や観光地なども楽しい思い出であるが、最も強く印象に残ったことは台北市のにぎやかさである。夜市は夜遅くまで営業しており、老若男女問わず夜 12 時回っても人が町にいる。外食の際に隣に座っている人は話し相手になるなど、日本では考えられないほど人と人のつながりが深い。他にも多くの発見があったが、どれも日本社会を違う目線から眺めるための材料になった。

### 進路への影響

2016 年 4 月から既に就職が決定しているため、近い将来の進路への影響は限定的だが、今回得た中国語のスキルは今後ビジネスで商機を掴んでいくためのこやしになったと確信している。

台湾留學對我來說是一個很有意義的體驗。台灣大學的中文課都用繁體字來教中文的，還有生詞也是跟北京話不一樣的。一開始有點複雜的感覺，但是習慣了就能欣賞台灣的獨特中文。就是像日文一樣有很多有趣的年輕人的方言，還有台灣腔也很特別。因為文化是語言的產物，這些語言的特點都幫我學好台灣的文化。